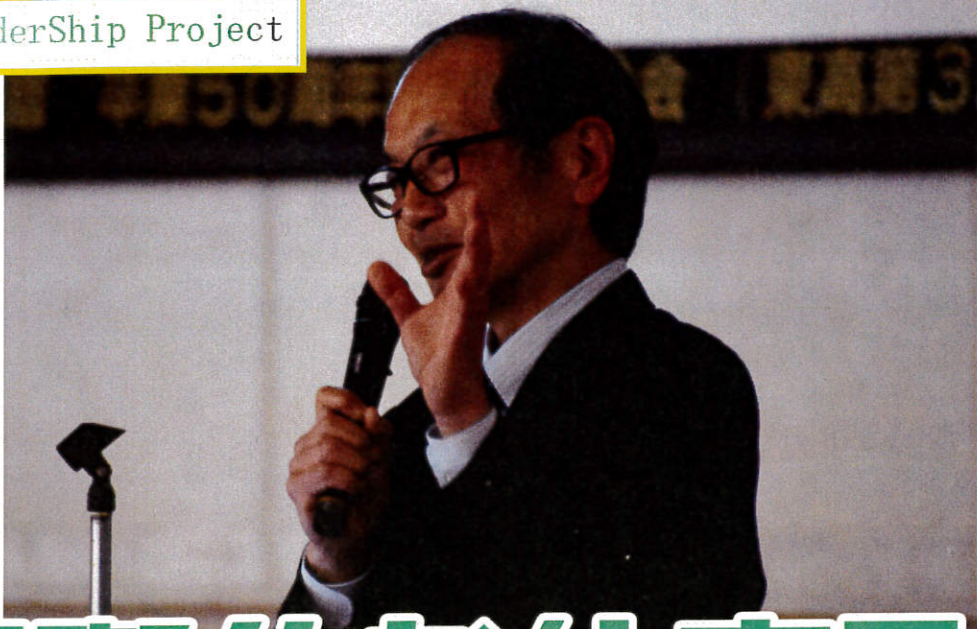


Leadership Project

▶有馬教授は「外国人と関わることで日本とは異なる文化の理解が深まり、自分の視野が広がる」を意見を示された。



国際的な仕事で 視野が広がる



4月15日に本校体育館で平成29年度第1回リーダーシッププロジェクト講演会が開かれ、東京大学公共政策大学院教授の有馬純教授が「私の国際経験」と題して講演が行われた。



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部
彦根市金亀町4番7号

高校英語は 英会話の基礎になる

有馬教授は英語の学習方法について「英単語力はとても大事。同じ意味を表す言葉でもさまざまな言い回しをできたら、自身の教養を示せる」と説明され「高校で学ぶ英語をしっかりとできれば、海外に出るための英語能力の基礎は確立できる」と続けられた。

また本校生に向けて海外に出るために必要なこととして「まずは大学に入るための勉強をして、その後大学で海外研修に出るなどすればいい。インターネットや英会話教室など、現在は昔よりも海外に出るための材料はたくさんあるので、やる気さえ出し続ければ必ず伸びる」とエールを送られた。



◀有馬教授は現在も英単語帳を持ち歩かれているそうだ。

世界と 関わるために

有馬教授は外国人と関わる仕事をする上で重要なこととして「他国の歴史や音楽、そして文化を深く理解する必要がある。日本のことについて伝える。

有馬教授は本校の卒業生でもあり、本校にいられて「外観があまり変わっていないから、たので懐かしく感じた。学生時代を思い出した」と笑顔で話された。

本校を 懐かしく感じる

有馬教授は現在までに仕事で4度海外に赴任されており、深い国際経験を積み重ねている。海外赴任では主にエネルギーや環境の問題に関する国際交渉を行われており、外国人と英語でのプレゼンテーションや質疑応答を何度も繰り返し返されていたそうだ。現在は東京大学公共政策大学院で、エネルギーや環境政策について教鞭をとられている。

「英語の発音のような細かいことよりも、まずは積極的に話すことが大事」と続けられた。また本校生に向けて「これから仕事で海外と関わる機会は増えると思う。海外に少しでも関心を持っている人は、ぜひその関心を持ち続け、世界に飛び出してほしい」とメッセージを送られた。